

校訓  
操守堅固  
至誠勵業  
剛健成風



発行責任者  
関西福中・福高同窓会  
板澤 達男(高35)  
奈良県生駒市  
萩の台5-1-3-204  
tatsuoitazawa@gmail.com



## 常識を壊して、発明をしたい。

江口 カンさん(高38回) 映画監督／映像ディレクター

CMやドラマなど数々の映像で見る人を惹き付け、世界の注目を集めて来た江口さん。2018年『ガチ星』で劇場映画監督デビューし、新たな境地を切り開く。19年1月、ドラマや舞台で人気を博した『めんたいぴりり』が映画になって全国公開された。

明太子を日本で初めて製造販売した、「ふくや」創業者の川原俊夫の人生をモデルにした物語。主人公・海野俊之は、戦争の傷跡残る中洲で「ふくのや」を営み、山笠と明太子作りに熱中するのぼせもん。人情に厚い博多の人々を描いた映画の製作話を通じて、映像づくりへの思いを伺う。[取材:武尾 愛恵(高48回)]

映画『めんたいぴりり』に寄せられる声援を、SNSで見かけた方が多いだろう。「ふくのやが帰つて来た！」と、福岡の人々に言つてほしい」。映画化にあたり、江口さんはまず考えたという。ずっと応援してくれている人たちを裏切りたくない。ドラマと同じ平常心で、初めて観る人のために不可欠なエピソードは残しつつ、新たな物語を作った。公開後の劇場では、笑いや嗚咽が聞こえ、若い人がおじいちゃんおばあちゃんを連れた姿もあったそうだ。また、ツイッター上で上映期間延長を求めるハッシュタグ「#ぴりり」を止めながら、上映する劇場も追加された。

暮らす者の心に沁みる、「肌に染み付いた言葉で撮りたくて、江口弁と言われるほどこだわりました」。山笠のシーンにも心躍るが、撮影は三月だったとか：「エキストラの中洲流の人たちが、勢い水に凍えながら頑張ってくれたんです。ちょっとかわいい『うだうたかな』。多くの協力があつて『めんたいぴりり』は完成しました。「そもそも地元の話を地元のスタッフで作つて全国へ発信するなんて、この作品のために映画会社を設立してしまつた。もう、福岡への偏愛でよね(笑)」。世界で活躍してもないとできません。ふくやさんにとって、この作品のために映画会社を設立してしまつた。もう、福岡への偏愛でよね(笑)」。世界で活躍しながら、観る人が飽きないよう心を碎いた。撮影期間はわずか一ヶ月だったが、演技にも画質にも妥協はしていない。多くの要素を詰め込みながら、観る人が飽きないよう心を碎いた。「戦争の悲惨さも描きました。また、新しい手法のCGなど実験的なことを散りばめています。スケトウダラさんもその一つ。いわゆる映画っぽくないキャラクターだけど、TVで面白かったものを活かしてもいいのではと。上手に作るより、観る

昭和30年代のある一年、ふくのやには楽しいことも悲しい事件も起ころ。「色々な出来事を皆で共有して解決し、また日常に戻る。今はあまり見かけない、繰り返されるベタな日常への安心感は、めんたいぴりりらしいの一つです」。江口さんは語る。そうした「季節の巡り」を表現するため、音楽を「から作り直した。撮影期間はわずか一ヶ月だったが、演技にも画質にも妥協はしていない。多くの要素を詰め込みながら、観る人が飽きないよう心を碎いた。「戦争の悲惨さも描きました。また、新しい手法のCGなど実験的なことを散りばめています。スケトウダラさんもその一つ。いわゆる映画っぽくないキャラクターだけど、TVで面白かったものを活かしてもいいのではと。上手に作るより、観る

の作品であることに意義を感じて下さつて、とにかく協力的でした」。脚本の東憲司さん(高35回)には江口さんが自身が依頼したそうだが、同窓だったのは偶然。「福高が苦手な者同士で気が合つて(笑)」。山笠の町の育ちではない「人が博多や山笠の話を書くことに、とても慎重になつた」という。「いい緊張感に繋がりましたね」。



KOO-KIオフィスにて

### 繰り返される ベタな日常への安心感

福中・福高同窓会

【事務局】

〒812-0043 福岡市博多区堅粕1-29-1福高記念館内

TEL092-641-7258 FAX092-641-3923 f-chiyogento@alpha.ocn.ne.jp

帰つて来た！と  
言つてほしい

より詳しい内容はWeb先行版で公開中  
<https://kansaifukuchufukkou.com>



## Profile

江口 カン(えぐち・かん)

高3の福高祭で『ロッキー』のパロディを作って映像に目覚め、九州芸術工科大学画像設計学科へ。在学中から映像制作の仕事を始め、卒業後フリーランスを経て1997年、KOO-KIを共同設立。TVC、Webムービー等を手がけ、カンヌなど国内外で多数受賞。2013年、東京五輪招致PR映像のクリエイティブ・ディレクションを務める。同年、ドラマ『めんたいぴりり』、15年に『めんたいぴりり2』を監督。18年、映画『ガチ星』全国順次公開、19年6月には『ザ・ファブル』が全国公開予定。

くだらない常識を壊したくない」と江口さんは言う。「『めんたいぴりり』は昭和の話だから、ターゲットは昭和世代ですね、なんて言われたりしましたが、それは違う。普遍的な笑いがあるし、年配の方には懐かしく、古趣味的ではなく、世代を超えて一緒に楽しめるよう撮つたつもりです」。「僕は常に、その映像ならではの発明を入れたいと考えてます」。

映像制作で人にも映像にも向き合う江口さんは、その先に広がるのはどんな新しい世界なのだろう。これからも声援を送り続けていきたいと思います」。

人が楽しめるかどうか、それしか考えていません。ご自身が一番好きな場面は、「ふくのやの味を盗もうとした石毛と海野夫婦の再会シーン。言葉は少ないのに、お辞儀が多くを語つて

いて。お辞儀、つてすごい文化だなと感じます。三人の表情も素敵なんですよ」。ここでは「縁が巡る」ことを表しているという。映画独自の演出に、自然と引き込まれていたことに気付く。

## その映像ならではの発明を

## 松山より

甲斐 朋香(高41回)



Sa-Rah estにて。筆者の着ているフードカーディガンもSa-rabのものです。

はじめまして、高校41回生の甲斐朋香と申します。昨年、「イチの会」が当番幹事だった関西同窓会にお邪魔したご縁で、仲間に混ぜ頂くことになりました。

私は今愛媛県松山市に住んでいます。正岡子規や夏目漱石も愛したという道後温泉は、自宅からも職場(松山大学)旧・松山商科大学)からも自転車で10分足らず。個性の強烈さで高知の鰹や香川のうどんに歩譲るといえ、山海の食材や自然の風景の豊かさも地域の魅力です。実は酒蔵も多く、時に遠来の友あらば、いっぱいの地元民のよくな顔で一献傾けるのも愉しみのひとつとなりました。

七月の豪雨災害は、地域の暮らしに大きな打撃をもたらしました。羊毛や麻など生地にこ

与えました。私自身は被害を受けずに済みました。が、柑橘産地でもある海沿いや島嶼部、ダムの下流域などでは、今なお復興に向けて努力が続けられており、ニユースに胸を痛める日も少なくありません。

その一方では、普段はのんびり屋な愛媛県人の底力に感嘆させられることも度々です。宇和島市津島町で特区申請し、どぶろく「N A S S O」(「なつそ」・驚嘆を表す南予地方の方言)を生産販売するN P O の O S S A N (おっさん)たちは、「どぶろくを百万円分売つて、売上金額ぜんぶ被災地に寄付する!」と宣言、わずか数週間で目標を達成しました。羊毛や麻など生地にこ



鬼北町特産のキジのたたき。愛媛県は、海の幸にも山の幸にも恵まれています。

ここ松山の地に暮らして十数年、瀬戸内気候さながらの穏やかさと豪胆さを併せ持つ「ひと」もまた地域的魅力なのだと日々実感しています。高齢化・人口減少が進む四国・愛媛。新しい、本当の豊かさとは何か、それを地域の方々が幅広く享受できるために社会のしくみとは、いち大学人として、また生活者として、学生や地域の方々と一緒に、ゆっくりと歩きながら考えていくたいと思ってます。

## 関西福中・福高同窓会 会長

岡部和也(高28回)

## 関西福中・福高同窓会 顧問

山本良雄(高22回)



## 関西福中・福高同窓会ピアーティー

藤本 茂(高16回)

参加者は24名で、そのうち高16回生は6名(白水、松本、佐藤、黒川、山本、藤本)の参加を得ることができました。

上林さん(高29回)の司会で会は進行し、岡部会長(高28回)の挨拶を頂いたのちに、まずはビールで乾杯して、会は賑やかにスタートしました。

同窓生の活躍のTV録画や、福高体育祭の様子などが映像で紹介されたり、佐藤君が遠路はるばる持参してくれた昔の貴重な写真集や高校時代に作成された文芸誌「福高」で盛り上がったり、今回初めて参加された酒井君(高51回)や佐藤さん(高31回)の自己紹介等も行われました。

また、今回の最年長者の柴田さん(高12回)や、女性で一番若くて今回受付をやってくれた矢幡さん(高53回)の挨拶の後に、白水君が、体育祭スタンド用の木材調達に、当時ゼネコンの支店長をしていた山本さんのおじいさんの所に行って、トラック2台分の木材を調達してきた話を紹介したり、佐藤君が持ってきてくれた文芸誌「福高」の中に記載されていた山本さんの詩を紹介したりして、大いに盛り上がりいました。

最後に、今回の最年長者の森藤さん(高12回)の挨拶の後に、「博多手一本」で最後を締めました。

終了後、大阪梅田迄地下街を徒歩で歩行中に、「1994.4.30:卒業30年の "Back To ザ 修学旅行"」は京都地区だけだったが、修学旅行では奈良にも行ったので、今度は奈良に "Back To ザ 修学旅行" に行かないかとの話が出て、「是非企画して行こう!」と大いに盛り上がり、勿論、関西地区だけではなく全国の福高寿禄会の皆さんにも呼び掛けようということになった。今後の推移を楽しみにお待ち頂きたい。



## 昨年の総会を振り返って

平成30年の関西福中・福高同窓会総会に、当番幹事として参加させて頂きました。

それ以前は、随分前に2回しか参加していませんでしたし、当番幹事として参加したことはありませんでしたので、初めは不安でした。

準備を始めてからは、岡部会長や常任幹事の皆様に助けて頂き、同期の佐藤さん、高41回の古賀さん、高橋さんと一緒に、何とか会を終えることができました。

当番幹事をしてみて、案内状の発送だけでも大変だということが分かりましたし、企画や進行を考える時は、限られた中で一人でも多くの方に参加して頂き、楽しんで頂けるにはどうしたら良いかと、悩むこともありました。

反省点もありましたし、大変なこともありますましたが、恩師の戸川先生にお目にかかる手伝いに来てくれた同窓生にも会えました。

講演を福津市市長の原崎さん(高41回)にお願いしたこと、福津市ができることを知りましたし、世

界遺産登録のことや福津市の魅力、宮地嶽神社を舞台にした映画「巫女つちやけん。」のことも知りました。

今までには、ほとんど参加してこなかつた総会ですが、これからは、できるだけ参加しようと思ております。どうぞよろしくお願ひ致します。



高田 智恵(高31回)

## 関西珊瑚会 高35回

同窓生はご一報ください!  
tatsuoitazawa@gmail.com

### フリーアナウンサー コミュニケーションアドバイザー

コミュニケーションデザインOffice  
(株)クオリア  
代表取締役  
上林久美子(高29回)  
kambayashikumiko@gmail.com  
090-1894-2278

## 関西げたの会 高22回

年に1度の  
同期旅行実施中!

## 関西珊瑚会 高35回

同窓生はご一報ください!  
tatsuoitazawa@gmail.com

